

日時：令和3年8月20日

開会 午後3時48分

○大阪市経済戦略局（馬越課長） それでは定刻になりましたので、令和3年度第1回大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。

本日の評議会は、大阪イノベーションハブの会場とインターネットを通じて相互に映像と音声の送受信を行う方式、いわゆるウェブ会議の形式で進行するとともに、YouTubeにより同時配信しております。

まず初めに、各委員と映像・音声の相互通信に問題がないかを確認させていただきます。なお、北岡委員につきましては、本日OIHにお越しいただいております。

岡委員、聞こえますでしょうか。

○岡委員 大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） 大丈夫ですか。フォーリー委員、いかがでしょうか。

○フォーリー委員 はい。大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） お願いします。山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員 大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ありがとうございます。通信状況の確認は以上です。

本評議会は平成25年に設置したものでございますが、前任の委員の皆様におかれましては任期満了に伴い昨年度末をもちまして退任されました。

今年度からは、参考資料1の名簿にございますとおり、新しい委員の方々に就任いただいております。北岡委員、岡委員、フォーリー委員、山本委員の4名でございます。どうぞ、よろしく願いいたします。

本評議会は、参考資料2の執行機関の附属機関に関する条例に基づき設置されておりました。グローバルイノベーションの創出の支援に関する事項の調査審議及び市長に対する意見の具申をお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の川村から御挨拶申し上げます。

○大阪市経済戦略局（川村部長） 委員の皆様、お忙しい中、本日は御出席をいただきましてありがとうございます。私は、大阪市経済戦略局でイノベーション担当部長をさせていただきます。川村と申します。よろしく願いいたします。

また、本協議会の委員にこのたび皆様御就任いただきましたことを、重ねてお礼を申し上げ

げます。ありがとうございます。

先ほど、司会からも御説明がございましたように、本協議会は大阪市の条例で設置をさせていただいておりまして、大阪市のグローバルイノベーションの創出支援施策を実効性のあるものとして推進していくために、イノベーションやビジネスに精通する皆様から専門的知見に基づく評価や助言をいただくことを目的として開催をさせていただいております。

本日は、昨年度事業の主な取組を後ほど御紹介をさせていただきますが、その事業にかかる評価のお願いをいたしますとともに、今後の取組の方向性、事業実施等にかかる御助言や御意見を賜りたいと考えております。

実は、今年度から、本市ではグローバルイノベーション創出支援事業につきましては、大阪産業局へ従来であれば業務委託という手法で進めさせていただいておりましたが、今年度からは事業交付金という新たな手法に変更をいたしております。これは、より弾力的に事業実施を進められるようにとの狙いで変更をしたものでございますが、本日、委員の皆様からも御意見等を各種賜りまして大阪のエコシステムのより一層の充実を図っていただければと存じますので、本日はどうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ありがとうございます。

早速ですが、委員の皆様には委員長を選出をお願いしたいと存じます。参考資料2の後ろから2枚目の裏面以降に、大阪市イノベーション促進評議会規則をつけておりますけれども、その第4条では、当評議会では委員の互選によりまして委員長を置くことになっております。いかがいたしましょうか。

○フォーリー委員 よろしいでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） お願いします。

○フォーリー委員 私のほうから御提案がございまして、これまでの知見とか御経験も鑑みまして、北岡委員を委員長に推薦させていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ただいまフォーリー委員から、北岡委員を推す声がありましたけれども、皆様いかがでしょうか。

（「賛成」の声あり）

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ありがとうございます。北岡委員、よろしいでしょうか。

○北岡委員 はい。どうも大役ですけれども務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ありがとうございます。それでは、北岡委員に委員長をお願いいたします。

また、同じく、この規則によりまして、あらかじめ委員長は職務を代理する委員を定めておく必要がございます。北岡委員長、いかがさせていただきますでしょうか。

○北岡委員長 ぜひ、関西のスタートアップに対して御尽力いただいております岡委員を指名したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） 岡委員、いかがでしょうか。

○岡委員 はい。ありがとうございます。精いっぱい務めさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） ありがとうございます。では、委員長代理は岡委員をお願いいたします。

それでは、これより、北岡委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

北岡委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

○北岡委員長 初めまして。大阪大学の北岡でございます。このたび、このような委員会に委員として選ばれ、また委員長として御指名いただきましたので、精いっぱい皆様方のために、大阪のために鋭意務めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私のほうですけれども、現在大阪大学で大学発スタートアップを進めているわけですが、昨今、岡さん、フォーリーさん、いろいろな方々と連携しながら、ぜひ大阪だけではなくて関西圏全体のスタートアップを推進していきたいということで、大学、産業界、行政、いろいろなところとネットワークを組ませていただいております。

そういった意味で、今回4名の委員の方々からいろいろ御意見をいただきながら、この大阪市、関西のためにいい形になればと思いますので、御協力よろしくお願いいたします。

それでは、議事を進めてまいりたいと思います。資料1枚目の次第を御覧ください。

本日の議題は（1）から（4）になっておりまして、まず、令和2年度の主な取組みについて。令和2年度の事業評価について。令和3年度の取組みについて。その他、皆様方の御意見を頂戴するという形になっております。

まず、議題1と議題2について、まとめて事務局より御説明をいただいた後、各委員から御意見、御感想をいただき、全員で評価を行いたいと考えております。その後、議題3及び

4について、再びまとめて事務局より報告をいただき、皆様から御意見や御感想をいただきたいと思っております。

円滑な議事進行に御協力をお願いいたします。

では、早速ですが議題1及び2について、事務局から説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理） イノベーション課長代理をしております、井上でございます。グローバルイノベーション創出支援事業、令和2年度の主な取組みについて、ただいまより御説明させていただきます。

御説明をさせていただいた後、その取組について評価いただくとともに、その後、令和3年度の取組をまた紹介をさせていただきます。

それでは、資料1、グローバルイノベーション創出支援事業の取組について説明いたします。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） 田原と申します。まず、資料1の2ページを御覧ください。

こちらは、本市のイノベーション施策、イノベーション創出支援の施策の全体像をシンプルに図にしたものでございます。これは、既に御案内のことも多いかと思いますが、今回初回ですので少し時間をかけまして、改めてになります御紹介いたします。

まず、本市の施策の大きなミッションですけれども、一番下に書いておりますように、イノベーションの創出の重要プレーヤーであるスタートアップの創出と成長をサポートしまして、地域に集積する大企業とか、大学研究機関とか、VC、金融機関、メディア、その他様々なステークホルダーの皆様とともに、大阪関西にイノベーションのエコシステムをつくることになっております。

具体的な取組、左上の枠で囲んだところがございますが、8年前の2013年に、大阪駅の北側の再開発地域、うめきたと呼んでおりますが、こちらに先行まちびらきしたのに合わせまして、この大阪イノベーションハブを開設いたしました。ここを拠点に市の施策として実施してまいりました。

どんな成果の形をつくっていくかの観点で申し上げますと、左上からコミュニティ形成、人材育成、プロジェクト創出と書いてあります。それらそれぞれを実現するためのコンテンツが、ちょっと色を濃く塗りました4か所ですね。このイベント、プログラムというのを書かせていただいております。

この取組のショーケースといたしまして、年1回実施しております、国際イノベーション会議「Hack Osaka」がございます。それから、大阪市が直営で実施しております、産学連携の補助金が、右下のほうに書いております。

これらの詳細は後ほど個々に御紹介をいたします。これら、いずれも大阪市だけではなくて、公益財団法人の大阪産業局をはじめたくさんの機関、団体、それから個人の皆様のお力を借りながら一緒に進めてまいりました。

もう一つ、重要な点がございます。今回、大阪市のイノベーション促進評議会なので、当然大阪市の取組の話をするんですけども、イノベーションとかスタートアップのサポートの世界は、自治体の境界にとらわれずに柔軟に広域で進めないといけないという部分もございます。OIHは、当初からグローバルで勝負しますということを打ち出しております。つまり、大阪からスタートアップに世界に羽ばたいてほしいと。逆に、世界から様々なものを大阪に引き込みたいと。

ただ、やはりこの分野は世界とまともに勝負しようと思ったら、大阪市というエリアも余りにも小さく、大阪全体というのはもちろんのこと、京都や神戸やその他の地域も含めた関西全体を一つの都市圏として内外に認識してもらわないと、なかなかまともに相手にされないという意識は当初から持っておりました。

その点、このOIHがありますうめきたは京阪神の交通の結節点でもあり、関西のスタートアップ支援の拠点として大きな地の利を持っております。

OIHの開設の当初は、同じようにスタートアップの支援をする地域というのがほとんど全国にございませんでした。ただ、その後、徐々に東京や福岡や、名古屋と増えていきまして、国の各省庁とか政府系機関のサポートもかなり手厚くなってまいりました。国全体でスタートアップを応援していこうという機運が盛り上がってきました。

そういうのもありまして、本市も大阪府、それから京都府、京都市、兵庫県、神戸市、といった近隣の自治体と連携する機会が増えることになりました。

こうしてスタートアップの創出と成長を応援していこうという機運が全国で盛り上がる中、2年前に一つの節目がございました。それが拠点都市です。次の3ページを御覧ください。

ちょうど2年前の夏、国の内閣府が一つの戦略を打ち出しました。これは、世界の先進地域を見ながら世界に伍する日本型のスタートアップのエコシステムの拠点の形成と発展を目指す、つまり、スタートアップやその支援者の一定の集積と潜在力を有する都市、こういった都市を幾つか選ぶ。そして、その選ばれた都市に対しては、国の関係省庁が一体となった

集中支援をするという戦略になっております。

大阪では、これを受けまして、まず大阪府や経済団体と一緒に大阪スタートアップエコシステムコンソーシアムというものを立ち上げました。その後、近隣の京都、神戸のエリアとも協議しまして、結局京阪神でくっつくことになりました。

その結果、「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」という一つの団体として申請し、昨年の7月にグローバル拠点都市に選定されました。

この選定では、これまでの各都市の取組の京阪神それぞれの取組の蓄積とか、既に京阪神で一定の連携をしてきたという基盤もございます。加えて、評議会の委員の皆様をはじめ、様々な方々の御支援のおかげであると考えております。

ちなみに、この拠点都市は全国で8か所、そのうち、より手厚い支援を受けられるグローバル拠点が京阪神を含めて4か所、それから、推進拠点というのが4か所になっております。8か所の中で、この京阪神のように複数都市が完全に対等な関係でくっついて一つのエリアを形成している、これは京阪神だけでございます。

拠点都市に選ばれると、どんないいことがあるのか、あるいは、何が求められるのかを御紹介いたしますと、この図の左側です。こちらが政府による支援でございます。たくさんあるんですけども、最も分かりやすく直接的なものが、この左上の太枠、赤い枠で囲んでおります、ランドマークプログラムと呼んでいるものです。これは、いわゆる海外アクセラレーターです。これは後ほど御説明いたします。

それから、真ん中の部分は、こちらは各拠点で産学官のいろいろな主体の入ったコンソーシアムをつくってくださいというものなんですけれども、大阪ももともとOIHを中心にいろいろな事業をやる中で産学官が連携して一体となって取り組んできたというベースがありますので、そこにさらに仲間を増やす形でコンソーシアムをつくって発展させてきました。こちらの事務局は、大阪産業局が担っております。それに、京都、ひょうご神戸にもそれぞれ同様のコンソーシアムがございます。

最後に、一番右側ですね。こちらは、各拠点都市の目標と書いていますが、これは拠点ごとにこういったテーマで目標をちゃんと掲げ、大体5年を目安に達成に向けて頑張ってくださいというものです。こちらも、後ほど資料の3に記載しておりますので御紹介をいたします。

次、4ページにまいります。

では、その国による支援メニューのうち、既に実施されたものを一つ御紹介いたします。

これが、海外のアクセラレーターによる、アクセラレーションプログラム。これは全国で一斉に実施されたものです。グローバル拠点都市4か所に対してなんですけれども、具体的にはアメリカのTechstarsとWillの2社によるアクセラレーションプログラムをオンラインで実施いたしました。

僅か2か月という短期間の間にメンタリングを通じた事業構想の策定とか、あとは英語でのプレゼン技術の向上とか、海外プロモーション。そして、海外の協業先とか販路の探索。それからネットワーク構築と。そういったたくさんのごことを吸収しましょうというフルバージョンの集中支援になりました。

参加スタートアップは全国の4拠点で50社ありまして、大阪では5社、京都では3社、ひょうご神戸では5社が参加いたしました。

大阪の参加企業は、こちら図に書いてありますとおりです。どうしても2か月のアクセラレーションプログラムなので、なかなかすぐに目に見える成果というのは難しいのですが、御紹介しますと、例えば、首都圏の大企業との商談に成功したとか、ヨーロッパでのプレスリリースがうまくいった、ヨーロッパでのオンラインによる商談会に参加できたとか、国内のVCからの資金調達に成功したとか。参加したスタートアップからはこういった声を今現在で聞いております。

あと、最後一番下に大阪コンソーシアムの動きとありますが、この海外アクセラレーターのプログラムへの参加者をサポートすべく、伴走者を確保して一緒に頑張っており、コンソーシアムの内部でも情報共有はもちろんなのですが、コンソーシアムとして主体的にサポートする力を上げるように、組織の力を上げていきたいと思っております。

また、京阪神連携では、相互情報発信とか、イベントへの相互乗り入れとか、エリア一体としての動きというのをつくっていく。そんなことになっております。

今回、内閣府の支援メニューは御紹介したのですが、ほかにも経済産業省、文部科学省、それぞれから支援メニューというのを出されていますので、これはまた後ほど触れさせていただきます。

続きまして、5ページに移ります。

「国際イノベーション会議 Hack Osaka 2021」ですね。これも委員の皆様にはこれまでから個別の形でいろいろサポートいただくことがあったんですけども、こちら、大阪の取組とか成果のショーケース。もともとは若手のスタートアップを中心に海外に羽ばたくきっかけづくりをしてもらおうとか、世界のトレンドの紹介、それから、対日投資に資

するような交流とかビジネスにつながる商談会、こういったことを加えながらこれまでやってきたところです。8回目となる今年は初めてオンライン開催になりました。Hack Osakaは御存じかと思うんですけど、やはり人の集積と濃密な交流ですね。これがあって、そのイベントをきっかけに偶発的な出会いとか、ビジネスのきっかけの場を提供しましょうと。そういうのを売りにしていたので、やはりコロナ禍で大分このやり方が影響を受けてしまった取組の一つになっております。

今回、グローバル拠点に選定された直後にして、京阪神が一丸となってやりましょうと言っていたタイミングでもあり、かつ、オンラインの元年ということもありましたので、大阪に来てもらわなくても気軽に世界のどこからでも参加できるという利点も得ました。

そうしたことから、まずはこの京阪神エリアの認知度を上げましょうと。魅力をいろいろな角度から発信しましょうと。こういったことにこの2021では注力いたしました。

概要と実施状況という下半分のところに囲んだところにいろいろ書いておるのですけれども、登録者は960人とあります。これは、本番の国際会議の部分に加えて、前後の1か月間ずつでオンライン交流できるプラットフォームをつくりまして、それらも含めた参加者が960人でした。ちなみに、英語で全部進行して、日英の同時通訳も入れたんですけども、英語バージョンの利用者は18%でした。コンテンツは記載してありますように、キーノートスピーチ、パネルディスカッション。それから、10社中9社が海外勢であるピッチコンテスト。それから、関西のいろいろな魅力発信のコーナーであるローカルアップデートというのを入れています。

また、その1週間後には、海外のスタートアップ13社と、大阪関西の主に大企業、投資家等との商談会というのを56件実施しました。あと、関西の大学の技術シーズを、大阪・関西の企業につなぐマッチングを13件実施しております。

このHack Osaka 2021は、オンラインの利点も上手く使いまして、特に海外からの参加者から好評いただき、対日投資の観点でも、海外スタートアップの大阪拠点の開設を後押しできたり、一定の成果を残すことはできたのですけれども、次回の2022に向けては、よりターゲットを明確にして成果の創出といったところにこだわって作っていきたいと思っています。

なお、Hack Osakaは、大阪市のほかに公益財団法人の都市活力研究所、それからジェトロ大阪と実行委員会をつくって実施してまいりました。今年度からは、この実行委員会に大阪産業局も加えて4者体制で進めていきたいと思っております。

以上でございます。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理）　　続きまして、6ページからグローバル展開に向けた取組、令和2年度中に行った取組について御説明させていただきます。

まずは、このコロナ禍におきまして、令和2年4月7日には政府におきまして緊急事態宣言が出されまして、大阪においては外出自粛を含めた対策を行ってまいりました。大阪イノベーションハブにおきましても、4月9日から5月31日までOIHの施設の一般利用を休止するとともに、イベントについても中止という判断をいたしました。6月からは、施設の使用人数を制限する等の対策を講じるとともに、オンラインを主体としたwithコロナという取組で進めてまいりました。

新たな連携によるイベントにつきましては、オンライン化を進めることによりまして、海外との時間・距離の障壁が低くなりまして、こちらのほうにありますドイツのアクセラレーターでありますとかNext Step Asiaとの連携、シンガポールのスタートアップシンガポールが主導となって国を挙げて取り組むスタートアップコンテストであります、Slingshotとの連携など、新たな連携先との協力を推進することができました。

中段左側のHack Osakaにつきましては、先ほど説明させていただきましたので、次に右側ですね。GET IN THE RING OSAKAについて御説明いたします。

昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症対策といたしまして人の密集を避けるため昨年12月3日にオンライン開催をいたしました。オランダ発祥の国際ピッチバトルでありまして、今回大阪イノベーションハブで開催するのが5回目となりました。規模に応じて3階級を実施いたしまして、うち2階級は日本企業が選ばれております。決勝は、令和3年4月に同じくオンラインで開催され、こちらのほうにも記載させていただいておりますけれども、日本から出場した企業が優勝いたしました。

また、下段に移りますけれども、新たなネットワークの構築として東南アジア地域においてスタートアップ支援の中心的役割を担っておりますACE様と包括的な協力を行うこととするMOUを締結いたしました。8月には、オンラインイベント共催で実施いたしまして、各国3社ずつスタートアップが登壇いたしました。オンラインでの海外連携のきっかけづくりを始めております。

7ページに移ります。

イノベーション創出に向けた取組ということで、イノベーション人材のコミュニティ形成イベント、人材育成プログラムで起業家人材の発掘、育成を進めております。

また、下段のほうになりますけれども、高校生、大学生向けのプログラムを事業者と共催で実施し、イノベーション創出の裾野拡大を進めてまいりました。

続きまして、8ページにまいります。

こちら、我々がイノベーションエクステンジと呼んでおります企業様側からのオープンイノベーションの取組につきまして、載せておりますとおりの実施を行いました。沖電気工業様、サンスター様との共同開発、提案というのをいただきまして、組織間交流を促進いたしました。

また、下段のピッチイベントになりますが、うめきた、こちらの大阪イノベーションハブがありますうめきたで行っております、うめきたピッチ。それから、またミライノピッチなどの資金調達、販路拡大の機会提供事業についても順調に推移しております。

続きまして、9ページになります。

O I Hシードアクセラレーションプログラム、O S A Pというものです。これは、大阪市のほうで行っておりますシード期のスタートアップについての支援を行う、創業前後のスタートアップに対して企業経験者、V C、メディア、専門家等と連携して事業成長の加速支援を行っている事業でございます。

これにつきましては、既にもう10回開催しております、令和2年度につきましては、第9期、第10期を実施いたしました。計参加20社の加速支援を行いまして、1期10社ごとになっておりますので、これで通算100社を支援したこととなり、下段の実績のほうになりますけれども、資金調達額で99億円を超えるような成果を出しております。

続きまして、10ページにいきまして、これが先ほど言いましたO S A Pの採択企業の1期から10期までの全100社の一覧となっております。

また、O S A Pにおきましても、次の11ページになりますが、スタートアップの海外展開を目的にO S A Pの採択企業から選抜で、海外展開支援プログラムを実施いたしました。こちらコロナ対策のためオンラインによる実施となりましたが、複数国におけるピッチ&ネットワーキングの機会の創出を行いまして、結果、現地企業また現地のアカデミア等との個別商談会を35件創出、投資商談については現在も継続中でございます。

○大阪市経済戦略局（渕上課長代理） 産学官連携担当課長代理の渕上でございます。続きまして、大学の技術シーズの事業化支援の取組について説明させていただきます。

まず、資料の12ページでございますが、テックミーティングでございます。

こちらは、大学の研究シーズを企業との共同研究開発や特許の活用につなげていくことを

目指すマッチングイベントでございまして、研究者が自らシーズを発表・説明しますので、参加者は当該技術を正確に知ることが可能となっております。

次、参加・実施状況の一番目ですが、昨年 12 月 10 日に「大阪府立大学・大阪市立大学 ニューテックフェア」というイベントを開催しております。こちらは、スマートシティやパブリックヘルス等をテーマに、両大学から 10 題の技術シーズが発表されております。

また、「テックアライアンスウェビナー」と称しまして、大学発ベンチャーとのマッチング会を 2 回実施しております。

2 つ目ですが、1 月 27 日開催のイベントには 74 名が参加し、14 件の個別面談につながっております。

さらに、3 つ目ですが、先ほど説明がありましたが、Hack Osaka の特設ページに関西の大学や大学発ベンチャーのシーズを紹介する動画を掲載し、面談の申込みを受け付けるオンラインのマッチング会を開催しております。こちらは 13 件の個別面談につながっております。

令和 2 年度につきましては、新型コロナウイルス感染防止のため、全てオンラインでの開催となりましたが、遠隔地から容易に参加できるようになったというメリットもございまして、茨城県と連携し、3 月 11 日に筑波大学や国の研究機関のシーズを発表いただいております。

次に、下のほうですが、大阪大学発技術シーズに基づく事業化構想ワークショップ、こちらを 11 月 29 日に大阪イノベーションハブ、大阪大学ベンチャーキャピタル、事業構想大学院大学の共催で開催しております。本イベントは、事業家人材の育成を目的としたもので、15 名の院生や研究員の皆様がシーズの発表と事業化構想に関する講義を受けた後、活発に議論され、構想案をまとめられました。1 日のワークショップでありましたが、実践的かつ貴重な機会であったと、参加者から大変好評いただいております。

続きまして、次のページ、13 ページでございます。

こちらは、大阪市イノベーション創出支援補助金でございまして、大学の技術シーズを基にした産学連携の研究開発に対する補助金でございます。大学に対して、補助率 2 分の 1、上限額 200 万円の補助を行っております。

本補助金は、令和 2 年度末までに 90 件の交付を行っております。右側の表の交付確定件数、大学別のほうの一番右、計の右下隅に書いてあるとおりでございます。

これまでに 11 件が事業化してございまして、事業化率としては 12% を上回るレベルでござ

います。直近では、左下の写真を載せておりますとおり、平成 28 年度に採択した兵庫県立大学の「排水生物処理に関わる技術シーズ」が事業化しております、企業のほうからは売行きも好調であると伺っております。

以上でございます。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理）　　続きまして、14 ページになります。大阪イノベーションハブにおきます主な成果事例の紹介ということで、まず、大阪イノベーションハブのパートナー、一緒に協業いただける事業者というところで、OIHパートナー会員の登録の純増数について御報告させていただきます。

令和 2 年度の実績といたしまして、44 者増ということになりました。全体といたしまして、大阪イノベーションハブのパートナーは 370 者を超えるパートナー数となっております。

主なパートナーといたしまして、こちらにお示しさせていただいております、アストラゼネカ様。アストラゼネカ様につきましては、2020 年 11 月にヘルスケア分野におけるオープンイノベーション活動を積極的に推進いたします「i2.JP」というのを立ち上げられております。そちらと、令和 2 年 8 月に登録いただいてから後、本市の大阪イノベーションハブのスタッフが「i2.JP」のキックオフイベントに登壇し、OIHの取組等を発信するなど、引き続きの連携を進めております。

また、次の株式会社NTTドコモ・ベンチャーズ様。こちらもスタートアップやイノベーション機会の発掘に取り組まれているということで、大阪イノベーションハブと共同でピッチ等の実施を行っております。

次が、ノルディックイノベーションハウストウキョウ様。これは、北欧 5 カ国から成りますスタートアップ支援機関で、行政機関ということもあり世界中に拠点がある事業者様でございます。こちらにつきましては、クリーンテクノロジーをテーマに、北欧と日本のスタートアップ・成長企業が登壇するイベントというのを共同で実施をいたしました。

続きまして、15 ページ。こちらは、創出したプロジェクトの支援件数でございます。

令和 2 年度につきましては 54 件プロジェクト創出を行いまして、こちらが主なサービスということで、上から 3 つほどお示しさせていただいておりますが、Bisu様、それから関西学院大学におけます、これは新型コロナウイルス流行下におけるストレス要因とアロマオイルによる心理的効果の実証を行ったビジネスでありますとか。また、メディギア・インターナショナル様というところが資金調達で成功したということでプロジェクト創出の件数として挙げさせていただいております。

以上、主な取組の説明となります。

続きまして、資料2にまいります。

資料2、令和2年度の事業評価について説明いたします。

令和3年3月24日に開催いたしました前回の評議会におきまして、年度途中ではありませんが前委員の皆様様に令和2年度事業の中間評価をいただいております。その評価の前提といたしまして、令和2年度は先ほども御説明させていただきましたけれども、緊急事態宣言を受けまして、大阪市といたしまして大阪イノベーションハブを約2か月間閉館いたしました。その影響を受けた事業区分につきましては、目標値に12分の2、2か月分を減じた補正を行って評価を行っております。

左端の部分の指標区分というところを書いておりますとおり、事業例といたしましてアウトプット、成果ということでアウトカムに分けた上で、情報発信、コミュニティ形成と連結、プロジェクト創出、そしてプロジェクトのショーケースと分類いたしまして、それぞれに対して当初目標、補正後目標、実績見込みという構成にしております。

中間評価という部分が、前委員様に評価いただいた評価となっております。

それでは、アウトプットのところから御説明をさせていただきます。

まず、情報発信の合計ですが、これが中間評価では779件の状態でしたけれども、最終年度末までで948件ということになりまして、目標は補正後目標の583件に対しまして目標達成ということになっております。

下段にいきまして、コミュニティ形成イベントについて、外部団体や誘致したコミュニティとの連携を進め、こちらにつきましても目標を達成しております。

海外ワークショップにつきましては、海外渡航制限下でありましたので、大阪にありますUSJの協力も得まして、デジタル世代の若者たちへのテクノロジーを通じて自分のやりたいことというのをビジネスにするプログラムを実施いたしました。

下段にいきまして、プロジェクト創出にかかる事業については、オンライン等の対策を講じた上で、人材育成プログラム、オープンイノベーションプログラム、ピッチイベント、大阪シードアクセラレーションプログラムの新規参加企業数ともに補正後の目標に達しております。

続きまして、プロジェクトのショーケースです。プロジェクトのショーケースにつきましても、国際会議のオンライン会議という海外アクセラレーターと調整に時間、労力を要するものでありましたが、無事開催することができまして、視聴者につきましても一昨年度に行

いましたリアル開催時と同等の参加者を得ることができました。

続きまして、アウトカムの説明をさせていただきます。

大阪イノベーションハブとつながった数といたしまして、フェイスブックのいいね、メールマガジンの登録者、Linkedin のフォロワーの純増数で測ることとしております。世界各地のイノベーション拠点で発行される「Startup Guide」への掲載など、新たな情報発信にも努めました。コロナ禍における主催、共催を含めたイベントの減などで、フェイスブックの数字については達成することができませんでした。

続きまして、コミュニティ形成・連結です。

アウトプットのほうで御説明させていただいたとおり、外資系事業者を含めネットワーク構築に努めた結果、パートナー数の純増数につきましては目標を達成しております。

続きまして、下段のプロジェクト創出です。プロジェクトの創出、推進支援については 54 件の創出支援を行うことができました。順調に推移しております。プロジェクトが獲得した資金につきましても、昨年度 43 億円となり、目標を大きく上回っております。

最後のプロジェクトのショーケースになります。

国際イノベーション会議 Hack Osaka における海外からの参加者数、メディア掲載数におきまして目標を達成することができました。グローバル拠点の選定を受けまして、京都、大阪、神戸の 3 都市連携の効果でメディアの注目度が上がっていたことも一因ではないかと評価しております。

以上になります。

中身につきましては、前回の中間評価をいただいておりますアウトプット及びアウトカム
の中間評価を御覧いただきまして確認いただきまして、最終的な評価についてよろしく願
いいたします。

説明については以上になります。

○北岡委員長 御説明ありがとうございます。大幅に遅れてますけど、どうでしょう。
審議時間は取ったほうがいいですか。

○事務局 審議時間は取っていただいて結構です。

○北岡委員長 分かりました。ちょっと今から 20 分ばかり御意見、質問も得ながら評価
について行っていきたいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

まずは、今の御説明いただきました令和 2 年度の取組について、何か御意見、御質問がご
ざいましたらお受けしたいと思っておりますけども、いかがでしょうか。

岡さん、いかがですかね。

○岡委員　じゃあ、いいですかね。

○北岡委員長　お願いします。

○岡委員　評価について、定量的な評価を今見させていただいたのですけれども、例えば、期待に対する満足度とか参加者のアンケートとかそういったデータ、定性的な評価があれば見たいなと思いました。

○北岡委員長　いかがでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）　イノベーション課長の馬越でございます。今、満足度のお話ございましたけれども、資料2で説明いたしました事業評価というのは、本日の参考資料である基本方針の目標達成状況に照らして評価したものでございます。

満足度につきましては、O I Hの各イベントを行いましたときにアンケートを取り、参加者に聞いております。個々の事業については確かに評価をしております、それをまたフィードバックして次にイベントをやるときに反映させてはいるのですが、本日お願いしています評価という点では、基本方針に照らしたものでございまして、その中に満足度についてのK P Iは定めておりません。申し訳ございませんけれども、本日の評価は基本方針の目標に照らしてということをお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○岡委員　分かりました。

○フォーリー委員　では、私のほうも。

○北岡委員長　お願いします。

○フォーリー委員　今回のこの事業評価のところで、さっき岡委員がおっしゃったとおり、定量的になっているんですよ。これはどういうふうにしてこの評価をされているかということを知りたいのですけど。今回の事業の目的としては、エコシステムの構築ですと。こういった個別の項目になっている定量的な評価が、どのようにしてエコシステムの構築に役立っているかというところの結びつけというのはどう解釈しているのかお聞かせいただけるといいでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）　やはり我々もフォーリー委員がおっしゃいましたとおり、エコシステムを充実させるということがまず大事だと思っております。

おっしゃるとおり、定量的な評価、参加者の満足度といったいろいろな見方があると思うのですけれども。まだ現時点ではプロジェクトの創出数とか、イベントが何件できたか

とか、資金調達額とか、そういう個別のスタートアップの支援というのがどれだけできたかというようなレベルに留まっております。満足度とか定性的な評価の部分というのは、これからの検討課題かなと思っておりまして、これからの評価をどういうふうにするのかということもいろいろ考えていかないといけないのですけれども、次回に向けた検討課題ということで、また御意見がいただければと思っております。

本日段階では、先ほど岡委員の質問に対する回答でも申しましたように、現時点での基本方針の目標に照らしました評価ということでお願いしたいと考えております。

以上です。

○フォーリー委員　ありがとうございます。

○北岡委員長　山本委員、いかがでしょうか。お願いします。

○山本委員　御説明、ありがとうございます。グローバルなエコシステムになっていくというような目標があったと思うのですけれども、それに向けて大阪だけではなく京阪神というところで対応していくというお話をいただいて、確かに、海外のスタートアップやエコシステムが日本のエコシステムとつながろうと思ったときに、エコシステム自体がどれくらいのポテンシャルがあるのかというのはすごく大切だと思います。

一方で、日本自体が海外から見ると、東京の名前は知られているけれどもそのほかのところの名前は知られていなかったり、ビジネス慣習的なところがブラックボックスだったりというところが結構あるので、じゃあ、例えば大阪とつながればどういったことが可能になるのかという、グローバルの中で大阪を確立するようなポジショニングみたいなところ、エコシステムとして他とつながるための強みというかUSPみたいなところというのは、もし今なければこれからお考えになると良いのではないかなというふうに思いました。

スタートアップにもいろいろあるんですけれども、いわゆるユニコーンの創出や成長のためには、ひょっとして大阪とか、京阪神圏では足りないということもあったりすると思うので、ここに来れば大きく成長していくためのどんな足がかりがあるのかというのがもうちょっと見える化されると良いのかなと思いました。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）　おっしゃるとおりでして、大阪として発信できるものをつくっていかないといけないと我々も考えております。

先ほど資料1の中でも拠点都市という話がございましたけれども、国の取組でも、京阪神から言っておりますのは、京阪神には京大とか阪大とか様々な優れた研究成果をもちます大学がある。特にバイオ系ですね。そういった分野で強みを持つところもかなりあるので、な

んとかそういう分野から、大学での研究成果などを生かして京阪神の魅力などを発信できないかということで、本日委員長をお願いしました北岡先生にもいろいろ御協力いただきまして様々な取組を進めているところでございます。

我々もそういうところから京阪神のポジショニングを高めるものを発信していきたいと思っておりますので、また次回以降説明ができたらと思っております。引き続き、委員の皆様からそのあたりのことも含めてよろしく御指導いただければと思っております。以上です。

○北岡委員長 皆さんの意見を聞いて同感だなと正直思っております。満足度とかエコシステム構築に向かってどうつながっているのかとか。日本全体として、大阪がなぜ知られていないのかということを考えてときに、今回資料を私も見させていただいて、何かイベントの報告書というようなイメージ感があって。本来であればOSAPに採択されている企業が100社あって、Hack Osakaに何十社か出たときに、それがどういうポートフォリオを組んでいて、それぞれがどういうフェーズにあって、どういうことを今悩んでいるのかということが分析されていると、多分海外から見たときとか、逆にベンチャーから見たときに、例えばスタートアップエコシステム拠点にこういうことをお願いしたいんだよという声とかが集まっていれば、どういうマッチングをしていけばいいかという方向性が見えてくると思うんですけど。

いわゆる、満足度とか定性的な部分がどうしてもないとか、定量的にしても全体分析ができていないので、なかなか海外から見たときに分かりにくいのかなというのがちょっと報告書を見て感じたところです。

せっかくこうやって今現在KPIに対してそれなりの数が達成されたという段階に来ていますので、やはり今3委員がおっしゃったように、これらの関西のベンチャーが今どういうフェーズにあって、何が困っていて、どういうことをすればいいのかという分析をすることがもうちょっと必要なかなと、私自身が感じたところなのですけど。

何かそれに対してコメントはございますでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） 今おっしゃったようなことをこれから拠点都市の取組の中でやっていかないといけないと我々も考えております。

今、北岡委員長をはじめ各委員からいただきましたような御指摘を反映できるような取組を我々も進めていきたいと思っております。

そういう意見をいただくというのがこの評議会の大きな目的でもございますので、また至らぬ点多々あると思いますけれども、ぜひ、引き続き御意見をいただければと思っております。

ますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

○北岡委員長　何となく、京阪神って関東から見ると仲が悪いと見られている一方で、ちょっとずつですけど現場感では一緒にやろうという意識もあって。そういうのをイベントをどこでやるかという多分もめたりするのでしょうけど、関西全体できっちりとスタートアップをまとめて分析していくということについては、これは協力していったほうが多分いいというのはみんな感じる事なので。そういうところで、協力したほうがお互いにとってウィン・ウィンだよということについて、ぜひ一体感をもってやっていただくのがいいのかなと思ひましたし、我々大学もけんかばかりしてられないので、統合しながらシーズをまとめてやっていこうと思ひておりますので、その辺をぜひ大阪市さんを中心でまとめていただけるとありがたひかなと思ひました。

何か、あとコメント、意見はございますでしょうか。どうぞ。

○山本委員　今のコメントに追加みたいな感じなのですが、よろしいですか。

アウトカムのところ、プロジェクト創出の資金調達額がすごく伸びているのを見たりしながら、これはシード期ではなくひょっとしてもうちょっと後のステージのものも入ってこの金額になったのかなというふうに思っていたのですが。

今、北岡委員長がおっしゃったように、分析の仕方をどう見せるかというところで、京阪神の中でシードではこれぐらい何件入って幾らになっている。その次のステージでは、何件あって幾らになっているというのが見えてくると、エコシステムがどういう形になっているか、自分のスタートアップもしくは企業にとってどう合っているかというのがすごく伝わりやすくなってくると思うので、定量的な数字ということも海外でもよく使われていて見えやすいですけど、そのステージごとに分けていくと、エコシステムのリッチさがより表現されると思うのが一つ。

あと一つは、バイオのほうにフォーカス、力が入られそうだとということであれば、そのバイオのところとかに区切ってさらに出していくと、海外のバイオテックのエコシステムに大阪、関西圏の魅力がより伝わりやすくなると思ひました。

○北岡委員長　正直、各国って結構、資金調達額とかベンチャー数とか分析を年ごとにされていひ。実際、大学発ベンチャーも今までは1,000社という数だけだったんですけど、最近、時価総額とイグジットバリューまで全部考えて、一回日本の大学発ベンチャーを分析してみようというのを、今、文部科学省、経済産業省ともやっていますので。ぜひ、関西圏全体でどういうふうな時価総額とか、イグジットバリューとか、どういうところを向いている

のかというところを分析すると、多分その分析が海外から見たときに、だったら大阪に行ってみようかなというモチベーションになるのかなと思いますので、山本委員のおっしゃるとおりだと思います。ぜひ、期待をしたいと思います。

では、意見をいただく中で、令和2年度の事業評価につきまして、前回中間報告ということで前委員が各項目についてつけていただいている状況にあります。これに関しまして、今回、最終評価をするというのが今日の目的でもございまして。上からちょっとずつ確認していきたいと思います。

情報発信については、数値的には当初の目標をクリアしているということで、中間評価時点ではAでございましたが、最終評価としてどんな感じでございますでしょうか。AをさらにSにする、もしくはAでいいんじゃないかと。これについて何か御意見はございますか。

○山本委員 当初の目標を大幅に超えていると私には見えるので、Sで良いのではないかと思います。

○北岡委員長 そうですね。Sという判断について、何か異議等はございますでしょうか。

○岡委員 それでいいと思います。

○北岡委員長 はい。では、まずここに関しましてはSに変えたいと思います。

次、コミュニティ形成・連結に関しましては、当初の目標から補正をかけたということで、コロナ禍の影響が相当あったということでございまして。とはいえ、目標に関しまして達成ができたというところございまして。中間評価どおりAということでございますけど、これに関してはAでいいかなと思いますけど、いかがでしょうか。

○岡委員 それでいいと思います。

○北岡委員長 では、Aとさせていただきます。

次、プロジェクト創出に関しまして、ここは当初の目標に関しまして、オープンイノベーションプログラムの開催数とか、コロナにやはり影響するところは補正値を辛うじてクリアしておりますが、当初の目標に対してはクリアしているものもあれば、クリアしていないものもあるということで。ここもコミュニティ形成と同様、やはりコロナの影響もあったということでAというのが妥当かなとは思いますが、いかがでしょうか。

○山本委員 いいです。

○北岡委員長 はい。では、ここもAという形にしたいと思います。

プロジェクトのショーケースということで、コロナ禍ではありますが、当初目標の国際会議への参加者数ということで700名が、実績としては960名ということで。これは、多分オ

ンラインもかなり入れてですかね。オンラインが逆に功を奏して、こういう国際会議の参加者数が増えたということでございます。中間評価ではAとなっておりますけど、いかがいたしましょうか。

○フォーリー委員　これ、一番初めの情報発信でAをSにしたロジックでいうと、これもSですよ。

○北岡委員長　そうですね。実ではいってないけどオンラインでは増えたというところをどう見るかというところですけども。昨今のこの状況において、オンラインというのは有効な手段ではあるかなという気もしておりますけど。その辺を加味して、いかがでしょうか。

○山本委員　いいと思います。オンラインで減っているところもあるので。

○北岡委員長　なるほど。

○山本委員　コロナでオンラインになったというのも結構最後のほうでなっていたんじゃないかなというふうに記憶しております。

○北岡委員長　はい。

○山本委員　そこでこれだけ増えたというのはとてもすごい実績だなと思います。

○北岡委員長　なるほど。これに関してSという評価に関して、御異議がある方はおられますでしょうか。

○フォーリー委員　いいと思います。

○北岡委員長　では、Sということで評価したいと思います。

では、アウトカムに関してです。情報発信に関して、いいねの件数とか、メルマガの登録とか、フォロワーの増加数ということで、ここに関してはコロナ禍いろいろあると言いながら×がついたり、補正值で何とかクリアしているというものもあって。中間評価時点ではBという評価がついているというところなんです。この辺に関して、どれぐらい異議をもつかということでございますけど、何かコメントはございますでしょうか。

○岡委員　これについては、どれだけ情報発信するかによるので。ただ、これはそんなに難しくはないし、その効果についてもクエスチョンも出るので、Bのままだでもいいんじゃないかなと思いますけど。

○北岡委員長　そうですね。Bというよりは、本当にほかのところのアウトカムにどう関係したかのほうが重要でしょうね。

○岡委員　そこをちゃんとやっているかどうかですよ。

○北岡委員長　あまり重たい話でもないなので、とりあえず、今年度はBという形でそのま

ま置いておくということで御異議はございますでしょうか。

○岡委員 リアリティがあっていいんじゃないでしょうかね。

○北岡委員長 分かりました。来年度頑張るという意味でもBということで。ただし、それに対する効果の検証も含めてやっていくということでBという形にしたいと思います。

○I Hのパートナー数については、先ほど御報告がありましたように、アストラゼネカさんをはじめ 44 者増えたということでございまして、これに対しましては、中間評価でもSという評価をいただいておりますけども、そのままSという形でよろしいでしょうか。

○山本委員 はい。

○岡委員 いいと思います。

○フォーリー委員 はい。

○北岡委員長 ありがとうございます。一番ポイントとして重要なプロジェクトの創出件数と、それに対する資金調達額。実際には、海外事務所の開設、提携件数ということでございますが。やはり、資金調達額が 43 億円に増えたというのが非常に大きなポイントであるかなということで、たぶん中間評価でもSという評価をいただいているのかなと思いますが、これに関して御意見はいかがでしょうか。

○岡委員 それでいいと思います。

○フォーリー委員 はい。私もSでいいと思います。

○北岡委員長 私たちは先ほど、意見を述べさせていただいたように、単年度のこの資金調達額だけではなくて、やはり関西全体の規模感とか、今後に向けたイグジットバリューとか、その辺を含めて今後分析ができるとさらに関西の魅力というのが見えてくるのかなというのは、先ほどコメントを述べさせていただいたとおりです。この 43 億円が、多分実際にはもっと関西全体では大きな成果を得ているのではないかなと思いますので、その辺は今後期待をしていきたいと思っているところでございます。

では、最後になりますが、プロジェクトのショーケースに関してでございますが、これもコロナ禍において国際会議への海外からの参加者数も 100 名に対しまして 134 名ということで、クリアをしているということで、中間評価からすると目標に対して達成したということでAという評価をいただいていると思います。これに関して、御意見ございますでしょうか。

○フォーリー委員 メディア掲載数が増えたというのは評価できますよね。

○北岡委員長 なるほどね。これは大きいですよ。

○フォーリー委員 オンラインで開催した結果、参加者数が増えたということだと思うの

ですけど。総合的にSというよりはAかなという気がします。

○北岡委員長 なるほど。

○岡委員 そうですね。

○北岡委員長 ここもAという形にさせていただきたいということでございまして。

そういうことでございましたら、情報発信の部分とプロジェクトのショーケースのところをAからSに変更するというので、S、A、A、S、B、S、S、Aという形で評価させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○岡委員 結構です。

○北岡委員長 どうもありがとうございました。これで、議題の（１）、（２）について終えたいと思います。

では、続きまして、議題の（３）令和３年度の取組みについて。その後、その他について御議論させていただきたいと思いますので、改めまして事務局より説明させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理） それでは、資料３、令和３年度の取組みについて御説明いたします。

まず、１ページめくっていただきまして、このうめきた地区におきますイノベーションハブを中心に、今現在、大阪・関西からの人材・情報・資金を誘引・集積させるプロジェクトを実施しておりますけども、令和３年度事業の実施におきましては、まず、実施する背景といたしまして、上段に３つ、２つの四角で書かせていただいておりますけれども、まず、この間ずっと御説明をしております内閣府のグローバル拠点としての連携を強化する。そして2025年の大阪・関西万博の開催、スマートシティであるとか、そういうビッグチャンスといたしまして、グローバルに活躍できるスタートアップの創出を目指していく必要があるというところです。

それから、コロナ対策から始まったものでございますけども、オンラインによるイベント実施、リアルに寄らない事業実施というのを進めると。これにつきましては、ビジネス機会の減少というところもありながら、逆にスピード感をもったビジネス展開が必要であるスタートアップにつきましては、海外企業との連携とかが容易になる。また、DXであるとか、AIでありますとか、新技術を扱うスタートアップも多いというところで、そういうところもビジネスチャンスになっておりますので、こういう機会を逃すことなく事業ができればいいのではないかとこのところがございます。

そして、こちらの一番右の事業の効率化というところで、こちらは行政の事業手法の話にはなりますが、スタートアップが必要とする施策や事業を機動的に立案・実行していくため、大阪市から事業者のほうに求める事業というのを業務委託という考え方から事業交付金に変更いたしました。これによりまして、単年度主義に陥らない弾力的な事業実施をすることが可能となっております。令和3年度でこの3つのこういう背景を基にいたしまして、具体的の方針につきましては3ページに事業方針といたしまして目標を示しております。

4ページに、事業の目標を示しております。まず、この上段の部分が産学官連携で組織をいたしております、大阪スタートアップエコシステム・コンソーシアムの目標となっております。そちらのKPI、目標につきましては、スタートアップの創出件数が、2020年から2024年までの5年間でスタートアップ創出件数300社、うち大学発のスタートアップが100社。スタートアップの成長といたしまして、ユニコーンを3社輩出するとしまして、あとは5億円以上調達スタートアップを75社以上と。起業家の聖地化を目指しまして、外国人起業家の誘致件数を20社。それから、万博を契機に活躍するスタートアップ輩出件数50社ということでコンソーシアムの目標としております。

このコンソーシアムの目標を達成するのに大阪市の事業として何をやっていくのだと、何を目標にするのだというところで、令和3年度から令和7年度まで、2021年度から2025年度までの期間になりますけれども、新たなプロジェクト創出の推進件数につきましては、400件以上と。それから、スタートアップにおける資金調達額を80億円以上ということで設定をして進めてまいりたいと考えております。

次のページからは、令和3年度の今の段階でこの大阪イノベーションハブにおいて実施を行った、また実施を予定している事業について記載させていただいております。

まず、スタートアップとVC、大企業が出会う場の提供ということで、スタートアップ単体としては海外展開がなかなか困難である状況の中で、オンラインによるイベント開催であるとかマッチング機会の提供により支援を行ってまいります。

グローバル展開支援で米国では、大阪市の姉妹都市としてのシカゴ市とその他の姉妹都市と連携のイベントを5月に実施いたしました。またジェトロロンドンとのピッチイベントを共催で7月に。それから、アストラゼネカ様とのオープンイノベーションを7月に。台湾のスタートアップテラスとのピッチイベントを8月に。そういう事業を実施する予定にしております。

続きまして、6ページ。この事業につきましては、昨年度、令和2年度に行っている事業

を継続して実施することにはなりますが、国際イノベーション会議の「Hack Osaka 2022」ということで、来年2月頃を予定に、これはオンラインのイベントとして予定しております。

それから、今年度、今回優勝者を出しました「GET IN THE RING OSAKA」ということで、大阪の開催では6回目になります。世界大会で前回優勝いたしましたので、今回もどのようなスタートアップが参加いただけるのか楽しみなイベントになっております。

また、海外ワークショップにつきましても、渡航制限をされている状況ではありますが、各国の状況を踏まえてオンラインによる交流も含め、実施方法を検討してまいります。

続きまして、7ページ。各ステージのスタートアップ企業に向けた支援プログラムの実施ということで、アクセラレーションプログラムにつきましては、OIHアクセラレーションプログラム(OSAP)につきまして、第11期、第12期を実施いたします。第11期につきましては、もう既にプログラムについて参加企業は固まっております、第11期の応募総数は50社、うち8社を採択して、ただいま加速化支援を実施いたしております。

海外のアクセラレーションプログラム、先ほどのグローバル拠点の関係で出てきたアクセラレーションプログラム支援でございますが、これにつきましてもまた国の募集の状況が定まりました後、コンソーシアムのほうから代表選手を出して支援を実施したいと考えております。

続きまして、8ページ。こちら、産学連携の推進ということで、これは今年度から新規で新たに行う事業としておりますけれども、大学発の研究シーズを活用したスタートアップ創出に向けて、新規事業創出やオープンイノベーションに関心を持つ大企業からの経営人材候補を集めまして、大学の研究者や研究シーズとマッチングを行える仕組みというのを構築するという事業を今年度から3年計画で実施を行っております。

続きまして、9ページです。これは、今までも実施していた部分の継続になりますけれども、産学連携テックミーティング、研究者が発表する機会を設けて、共同研究開発や特許の活用を目指す事業ですけれども。これは7月29日に、カーボンニュートラルに関する研究シーズ等を公開するテックミーティングを開催させていただきました。

それから、下段になります。産学連携の研究開発にかかる費用の補助の、大阪市イノベーション創出支援補助金ですけれども。今年度につきましては、もう交付決定を全て終わっております、全部で9件の事業を採択して、今研究等を進めていただいております。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） 10 ページを御覧ください。グローバル拠点都市の取組みと書かれております。これは、先ほど内閣府のプログラムを御紹介しましたけれども、それ以外にも、①経済産業省、②文部科学省が大学を中心としたプログラム、これは拠点都市に対する支援メニューとして実施しております。

これは、まさに北岡委員長のいらっしゃる大阪大学さんにも主要なメンバーとして関わっていただいているのですけれども。特に研究開発とか事業創出の加速化だけじゃなくて、イノベーター人材育成とか、あるいは起業家教育を今度指導・支援する側の人材育成とか、研究開発プロジェクトの推進とか、起業環境整備とか、多彩なメニューになっております。

これらは、これまでやってきております個社の支援とかイベントとかよりも、もっと大きなスケールで、特に①は5年間にわたるプログラムになっておりまして、地域の産学官が全て参画して強靱なエコシステムをつくり上げましょうと。さっき御指摘のありました、本当にエコシステムに直結していくようなプロジェクトであると考えてますので、こちらを十二分に生かして当初のミッションの達成に役立てていきたいと思っています。

③は内閣府がやる今年度のアクセラレーションプログラム。これは、さらに今回ニーズに合わせて産業分野ごとにきめ細かなメニューがつくられると聞いております。

以上になります。

○北岡委員長 どうもありがとうございました。

○大阪市経済戦略局（井上課長代理） 引き続きまして、資料4について、これは御報告になります。こちら、「大阪の再生・成長に向けた新戦略 2021～2025」という戦略についての御説明になります。

大阪府並びに大阪市では、これまで大阪の成長戦略や副首都ビジョンなどを策定し、大阪の成長に向けた取組を府市一体で進めてまいりました。その結果、スタートアップエコシステム、グローバル拠点都市への選定でありますとか、2025年大阪・関西万博の開催決定など、大きな成果をあげてきたところでございます。

こうした成果を土台に、今般のコロナによるいろいろな影響を踏まえまして、経済や市民生活へのダメージを最小限に抑えるために緊急的に取り組むべきもの、さらにはコロナ終息に向けて大阪の再生・成長に向けて取り組むべき方向性を明らかにする「大阪の再生・成長に向けた新戦略」が策定されました。

そちらの4. 戦略の目標というところに、スタートアップの創出数、300社創出と書かれておりますが、3. 取組みの方向性の部分で、「5つの重点分野から取組みを推進し、さら

なる成長へ」というところの③スタートアップ、イノベーションの創出というのが掲げられております。経済成長にかかる重点分野として、スタートアップ、イノベーションの創出というのがあげられておりました、これからスタートアップの支援、イノベーションの創出、エコシステムの構築を行うに当たりまして、大阪府・大阪市の経済成長の中でも重点な分野として位置づけられておるということを御報告としてあげさせていただきました。

ありがとうございます。以上です。

○北岡委員長 御説明ありがとうございました。では、資料3、資料4の説明に関しまして、御意見、アドバイス、いろいろいただければと思いますので、委員の方、よろしく願いいたします。

まず、では岡委員、いかがでしょうか。

○岡委員 ありがとうございます。かなりの取組をされていることは、もう前々から感じていたのですが、こうやって具体的にスライドを見せてもらおうと、本当にかんりのリソースをかけてされているなど感心しました。

ただ、行政が予算を使ってされているのでなかなか難しいかもしれませんが、一つアドバイスというのか御提案したいとすれば、先ほどの話にリンクするのですが、大阪のエコシステムに対して、実際、スタートアップがどう感じているのか、満足度とか、言い方はいろいろありますけど。僕自身がマーケティングを専攻していた関係で、どうしてもその満足度が気になって仕方がないのですけれども。

できれば、恐らくメールアドレスをお持ちだと思いますので、それなりの満足度調査、さらにどのような不安とか不満とかニーズがあるかどうかを調査されて、それをまた俯瞰的に見るというのも、今後大阪のエコシステムを次のステージに持っていくのに非常に重要なステップになるんじゃないかなと思いました。

今、カスタマーサクセスとかいろいろな言葉がありますが、最終的には顧客体験をどれだけ高めるかということなので、そういった意味では、僕自身がスタートアップファーストという立場でやっている関係で、そういった現場の本当に困っていることを本質的な大阪のエコシステムに求めることがどんなことがあるのかなというのを深掘りできたらなと感じました。僕からは以上です。

○北岡委員長 貴重なコメント、ありがとうございます。やはり、私も各大学から話を聞いていて、京都と神戸とか和歌山とか、いろいろなところと連携する中で、やはりいきなり東京に行かなくても大阪でできるのだったら大阪で頑張りたいなと思っているんだけど、大

阪で何ができるか分からないから、それだったらいきなり東京に行こうかなというようなイメージがある方も多くて。大学発ベンチャーが、まずは大阪というところで、関西というところで何ができるのかというのが明確化してくると、ワンステップ、そこから逆に東京に行かなくてもそこからグローバルというのものもあるのかなと思うので、岡委員がおっしゃるように、やはり今関西で何が不満なのかというのはすごい重要なところだと思いますので。それはぜひ、非常に面白いかなと思います。

○岡委員 さっき山本委員も言われてましたけど、資金調達にしてもミドル、レイターはいま資金潤沢なんですよ。

○北岡委員長 そうですよ。

○岡委員 でも、シードとシリーズAに行くまでが結構大変で。これが東京にはその辺のVCがたくさんいるんですけど、大阪にシードとアーリーに資金を出すVCがほとんどいないので。そういったことも直接よく聞く話なので。

あと、メンターの問題とか、大企業とのアライアンスが大阪はなかなかしてくれないような、これは噂なんですけどね。その辺の先行投資をしてくれるような大企業がもっと増えればいいかなとも聞いています。

○北岡委員長 ありがとうございます。フォーリー委員、いかがでしょうか。

○フォーリー委員 さっきも申し上げたエコシステムの構築というところがそもそもの目的のときに、こちらの今回のKPIというのですかね、数値目標について資金を調達できたとかという、出すほうが非常に多くて、イグジットのほうがないのかなと。なので、出してそこがイグジットして、それがエコシステムで回っていくというところをつくっていくための一つの数値目標なのか、何らかの指標というのは一つあってもいいのかなという気がしました。

あと、もう一つなんですけど、ちょっとこれ、今改善されているかどうか分からないのですが、この取組が始まった頃って、結構出てくるスタートアップが同じ顔ぶれというのがあったような気がします。東京と比べると、やはり関西のスタートアップの数がまだまだ少なかったというのもあって、最近増えていると思うものの、これは逆に大阪市さんの情報力もあると思うのですが、いろいろなスタートアップの裾野を広げるという意味で、いろいろなスタートアップが参加をしていただけるようなことが実現できるといいのかなと思いましたので、そういったところも、もし参考にしていただければと思います。

○北岡委員長 そうですね。先ほど私が言いましたように、各企業がどのステージにあっ

て、イグジットがどの辺に、あと何年後に来るのかということ自体が把握されていないくて、ただ、イベントに参加しているというだけだと、なかなかやはり支援もできないので。

やはり、来年イグジットの可能性のあるベンチャーがどういうところがあるのかとか、あともう一押しをしてあげれば数年後にイグジットできるところがあるのだという分析ができると、それに対するサポートの方法とアプローチが見えてくると思うのですけど。

今は、多分イベントに参加したとか、資金調達がいくらしたというところで終わっているのが多分一つ大きな問題だろうなと思います。

もう一つは、スタートアップの顔ぶれに関しては、これは大学発ベンチャーにも相当責任があるなと私は認識していて。今、経団連、同友会と大学発ベンチャーを御紹介しているのですが、正直初めて知りましたという方が多くて。我々の努力不足というのは、これはもう責任があるなと思っています。

やはり、そういう意味では、せっかくであれば大阪市さんがこういう拠点構想を考えているのであれば、今回経済産業省、文部科学省で2つ大きな事業が動いていて、大学発ベンチャーの取りまとめを都市活力研究所と大阪産業局が今始めようとしているところなんですね。そういう2つの母体が入ってきてくれているので、関西圏の大学発ベンチャー及び全てのスタートアップを取りまとめるということは、結構1年ぐらいあればできちゃうんじゃないかなと思っています。それが見えてくると、やはり海外の投資家や産業界もすごく近くにスタートアップを感じられるのかなというのがありますので、ぜひ、裾野を広げるという意味で大学も尽力していきたいなと思いました。

○フォーリー委員　それは、素晴らしいことだと思います。やはり発掘をするというところと、発掘できるようなスタートアップの数を増やすというところはセットかなと思っておりまして。

大阪がすごく良くなってきてるとか、大阪が元気になってきているという声があり、機運が上がってきているので、ここで万博に向けて一気に機運を高めるようなことをぜひ大阪市のほうでやっていただけると大阪の活性化につながるのかなと思っています。

○北岡委員長　山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員　万博で少し思ったのですけれども、万博で活躍できるスタートアップという言葉をする、じゃあ、どんなスタートアップなんだというふうに思うので。それもある意味、産業分野とかクラスターとか、スマートシティなのか、違うエリアなのかという、もうちょっと産業的な括りができるとアプライしやすいとか、スタートアップも集まり

やすいのかなと思ったのが一つと。

あとは、今、フォーリー委員がおっしゃっていたように、エコシステムがすごく育っていくには、そこからイグジットスタートアップの資金とメンタリングがどんどんその中に入っていく必要がある。スタートアップはメンターの実力とあと資金がどれぐらい入るかというので成長速度がすごく変わってくるので。今、資金調達をするのに時間がかかり、メンターも会場に行くと会えるみたいな感じだと、正直、スタートアップのスピードでは成長できなくて、そのスピードで成長できないと、成功するスタートアップも成功しなくなるというのがこちらでは分析の結果になっているので。K P Iに5社ユニコーンを輩出と書いていたのですが、5社の前に早く1社、大きいところをぼんつくって、その資金と人材が回り始めると、そこから2社、3社、4社、5社というふうになっていくというようなフォーカスの仕方を考えてもいいのかなというふうに思いました。

あと、この御時世で全てがオンラインになってきていて、それはとても良いことなんですけど。例えば、ベルリンにもテックスターズがありまして、ベルリンのテックスターズって半数以上はドイツのスタートアップじゃない会社が入ってます。ベルリンのテックスターズのアクセラレーターに入ってくる企業は、ドイツで成功しようと思っていないこともないんですけど、それよりもグローバルで成功するためにグローバルなアクセラレーターに入るんだってというような意識があるので。

大阪の中でアクセラレーションプログラムを組む場合に、大阪の人材で、大阪で育てほしい、そういうアクセラレーターなのか。それとも、海外のアクセラレーターが入って、グローバルでいきなり成長しようとして、それがたまたま、今、自分に合うのが大阪だったから大阪に来たというスタートアップなのかというところを少し考えられると、集めたいスタートアップが集まりやすくなるのかなというのも思いました。

イノベーターの人材育成というところで、大阪内でのイノベーションを起こすためのイノベーターの人材育成というのと、グローバルで活躍できるようなスタートアップを育てるためのイノベーター育成というのも少し違っていると思うのですね。なので、グローバルイノベーターというのを育てていくのであれば、そこも育成の仕方というのがいくつかあるんじゃないかなと思うので、それを例えば海外に出してそういう方を育てて、さらに戻して育てるというのもありますし。

ベルリンとかですと、ベルリンをグローバルな場所にしていくためにベルリン州政府がアンバサダーとかを各地にもっていたりとかして。その違う地域で活躍している人たちがそれ

ぞれのネットワークを構築して、そのネットワークを集める形でグローバルなネットワークをつくっているような状況もありますので、点で考えるのではなく、どうやってグローバルな面を大阪からつくっていくかというようなイノベーターの育成の仕方という考え方もあるのかなと思いました。

最後に、その産業分野とかクラスターごとでのアクセラレーターをされるという計画をおっしゃっていたと思うのですが、それはとても良いことだと思います。やはりアクセラレータープログラムってどこに入れば自分が伸びるのか、どんなメンターがいてくれるのかというのはすごく大切なので。それはきれいにクラスターごとにとか、産業分野ごとに明確になっていると、スタートアップも、じゃあここにいけば自分たちに合ったプログラムがちゃんと得ることができるのだと判断しやすいと思います。

アクセラレーションプログラムって3か月とかかかったりして、合うメンターがない場合はスタートアップにとっても時間の無駄になってしまうので、そういうのがなくなるようなそういったアピールの仕方っていうのは、すごく良いのかなと思います。

○北岡委員長　ありがとうございます。大阪大学でも岡委員に協力いただきながら、やはり一人の成功者の与える影響ってすごく大きくて、阪大でも、シリアルアントレプレナーが今数社出だして。やはり成功者の影響力っていうのはとてつもないなと思います。

だから、そういった意味で、やはりこういうイベントというか、アクセラレーションもターゲットを絞ってこれを育て上げるのだという、どちらかというとは本当はみんな仲良くがいいんですけど、1社を花開かせてしまうというのが多分すごく重要なのだろうなと思いました。

あと、人材育成については、本当に大学としてはもうちょっと頑張らないといけないなと思いつつも、やはりグローバルなベンチャーの人材を大阪という地で育てられるのかという悩みをいつも持ちながらやっているとあります。やはり、我々はある程度の教育機関でやっていますが、やはりそれを本当にグローバルに育て上げるベンチャーのCXOをつくるというのは、もうちょっと違う観点でやらなければいけないな。まさに、我々、今、京都大学や神戸大学と議論をしているところですので、これもぜひ大阪市さんと一緒に進めていければというふうに思っているところでございます。

あと、最後に私自身、3名の委員からいただいた意見に同感なので、そこに関してはもうこれ以上述べるつもりはないんですけど。

一つ、やはりこの場を借りてお話しすると、なぜ大阪市が関西を取りまとめなきゃいけな

いのかというのが、やはり僕はもうちょっと大義名分があってもいいのかなと思っていました。やはり、そうしないとO I Hがどういう存在なのかなとか、スタートアップエコシステムの事務局は一体誰なののかというのが、やはりいまだにちょっと理解できていないのかなという気がしています。

そういった意味で、やはりこの大阪という土地が別に大阪だけに全ての利益を誘導するわけじゃないので、先ほどお話がありましたように、大阪が元気になれば関西全体が元気になっていくわけであって。そういった意味で、このO I Hという場所で大阪市さんがどういう形で関西全体を取りまとめるのかということについてはすごく重要なことだと思うので。それについては、もう一回きっちりまとめて関西全体が理解を共有化できるのがいいのかなというふうに改めて感じたところがございます。

何かコメントで漏れていることがございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

ありがとうございました。では、本日の議題（３）、（４）についてもこれで終えたいと思います。

委員の皆様方、御意見ありがとうございました。本日いただきました御意見につきましては、今後の各事業に反映できるところは反映して進めていくことを期待したいと思いますし、今後、評議会が開催されたときに、また改めてその進捗なりについていろいろ御意見をいただければと思います。

それでは、本日の評議会は以上をもって終了とさせていただきたいと思いますので、連絡事項につきまして事務局から最後お願いしたいと思います。

○大阪市経済戦略局（川村部長） 連絡事項の前に、一言、イノベーション担当部長 川村から御挨拶をさせていただきたいと思います。

本日は、委員の皆様方から非常に忌憚のない御意見をたくさんいただきまして、我々としても今後の施策に十分に生かしていけるようにこれから務めさせていただきたいと思っております。

最初の挨拶や途中の説明でも縷々させていただきましたように、今年度からO I Hの運営を担っていただいている大阪産業局と大阪市との関係ですけれども、昨年度までは委託事業ということで、こういうふうなことをこういうふうに何回やってくださいというふうな、そういうお願いをしながら事業を進めていただいていた関係にございました。

ただ、今年度から、これは大阪市の中小企業支援施策全般に関わる話なんですけど、そうい

った中小企業支援の施策については、産業局に対して交付金という形で、大阪市からは大きな目標、K P I を示しつつ、その実際の進め方、やり方、例えばこれを何回するとか、そういった部分も含めて、それは産業局のほうで検討していただくという仕組みに変えさせていただきます。

つまり、どういうことかということ、大阪市としては、まさに最初に北岡先生から事業の紹介になっているよねという御指摘もあったのですが、これまでは促進評議会の中でこういった事業をやっていきますということを御説明しながら御意見を承っていたと。

ただ、大阪市も産業局に対して実際にこういうことを具体的にお示しするというよりは、大きい方向性だけを示して進めていただくという形になっているので。まさに、今日いただいたような種々の御意見、例えば大阪の強みって何とか、そういった部分とか。確かにこういう分析の仕方があるよねという御意見とか、そういったことをこういった場でもいただきながら、また、我々のほうでも行政として大きい方向性を考える中で組み込んで考えさせていただきますながら反映していく。それもまた、こういった場でフィードバックさせていただいて、また御意見を頂戴させていただくと。そういう形で今後進めさせていただけたらありがたいなと改めて感じた次第でございます。

引き続き、今日が就任いただいて1回目の評議会ということで、引き続き様々な御意見、御提言をいただくことになろうかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日はありがとうございました。

○大阪市経済戦略局（馬越課長） 委員の皆様、長時間ありがとうございました。

次回の評議会ですが、来年3月を予定しております。事務局から後日また日程調整の連絡をさせていただきますので、次回もどうぞよろしくお願ひいたします。

本日の評議会は以上で終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

閉会 午後5時27分